

<週報No.2, 870> 2, 981 回例会

2019年2月8日(金)

■会長/古屋 了 ■幹事/加藤 明博

◆司会=伊藤武利 SAA

◆ゲストビジター=小笠原弘三ガバナー補佐、山谷恭博
IM実行委員長

◆出席報告

本日	69.05%	17名欠席
前回訂正	82.22%	9名欠席

◆ラッキーナンバー=No.16 石田孝一君

◆ニコニコボックス=●古屋了君、加藤明博君=小笠原弘三ガバナー補佐、山谷恭博 IM 実行委員長、ようこそおいで下さいました。●増澤洋太郎君、山本實君=小笠原弘三ガバナー補佐、ようこそ。●石田孝一君=ラッキーナンバーにあたって。

◆会長告知・古屋了会長=今年の例会テーマは「飲水思源」です。布半さんの事務所の加藤社長の頭上に掲額されているのを見つけた時から、私と加藤幹事をつなぐ言葉として、この「飲水思源」をテーマにしようと思ったのです。調理場の追廻から社長となられた加藤さんのその思いを推察すれば、育ててくれたご両親はもとより、親父として慕う吉澤元料理長、そして故藤原正男元会長への感謝の思いを身に刻まれる決意かとも存じます。

一方、私自身今日、諏訪ロータリークラブという清流の中に皆様と交われるのも、その井戸を掘った先人あつてのこと。私ごときが先輩を語ることは失礼とは存じながら、自身の身を正す思いでお話しさせていただきます。資料は H13 国際交流協会、諏訪環境まちづくり懇談会編追悼文集から拾いました。

藤原さんは諏訪市中町で宿屋と紙屋を営む布半旅館の長男として大正 9 年に出生。この頃ご両親は現在のこの地へ布半別荘として新館を建築。藤原少年は中町の本店を住まいに、お元気だった曾お爺さまの半助さん、おじいさんおばあさん含め大家族の中で育ちました。高島小学校の六年間は丸多田中屋さんの剣道場“尚武館”で心身を鍛え、霧ヶ峰スキー場が開設されると油屋旅館の有賀先輩とのスキーに没頭。ところが、世界を襲った大恐慌は、庶民の平和な暮らしを遮り、諏訪中学へ上がる頃には軍

国主義の思想統制も厳しくなりました。自治を標榜する諏訪中学でも、剣道部・柔道部・学友会が中心となって矯風会が組織されたようです。藤原少年は、矯風会の世を憂う悲壮感と正義感を燃え立たせる雰囲気になじめなくて、剣道部の部長に指名されたことをきっかけに、そうした風潮から逃れるように、中学 4 年で大学予科を受験、慶応大学へ進学しました。恐慌下にあっても大学に進学できた背景には、霧ヶ峰スキー場の人気で生まれた宿の活況があったようです。ところが 21 歳で繰り上げ卒業という形で応召され、陸軍中野学校を経て近衛師団司令部情報将校として従軍。前線行きは免れ、インドネシアメダンにて終戦を迎え、1 年後に諏訪へ復員するまでの凡そ 3 年を戦地の惨禍の中に苦闘されました。

ご自身、神経質で臆病で我儘な少年だったという藤原さんの従軍時代を支えたものは、中学野球部でシートノックに立ち向かった捨身のファイティングスピリットと、多くの家族や従業員の非難中傷に負けないお母様の葛藤の姿だったようです。

◆幹事報告・加藤明博幹事=①本日は小笠原ガバナー補佐の卓話と山谷 IM 実行委員長のお話があります。②先週の理事会で新入会員の推薦が承認されました。入会に異議のある方は一週間以内に申し出てください。③国際ロータリー第 2600 地区より、三井会員、岩波会員、小口武男会員、五味会員に、来期役員の委嘱状が届いています。④ロータリー情報委員会主催で会員セミナーを今月 28 日(木)会場は布半で行います。多くの方のご参加をお願いします。

●第 2600 地区来期役員委嘱状の交付式



三井会員・諮問委員会
岩波会員・会員増強委員会
五味会員・ローターアクト委員会

●小笠原弘三ガバナー補佐＝3回目の訪問です。3月9



日にIMがありますが、ホストは諏訪大社クラブで、テーマは「未来」です。地域、ロータリークラブ、奉仕の未来を考える機会にしてもらえたらと思います。

古屋会長から頼まれたので、消防団の話しをします。

消防庁によると平成10年96万人、女性8458人、同22年88万人、1万9043人。女性は増えていますが、男性は減少傾向です。

茅野市の消防団は10分団に別れており、私は宮川分団に所属しています。宮川分団には実質的に12部あり、私が分団長の当時は分団員は148名でした。

私は、操法大会ではポンプ操法の選手として朝4時に起きて訓練に励みました。昭和55年には市の大会のポンプ操法で優勝したのですが、その年の郡大会では、立てているホースが緩んでホース展開ができず最下位という屈辱を味わいました。翌昭和56年には私が部長でしたが、県大会で優勝しました。この時は戸倉のグラウンドで亡笹川良一日本船舶振興会(当時)の会長から表彰を受けました。宮川分団の分団長は10年やりました。

平成21年に長峰区の区長をしたのですが、その時に区の若い人たちが消防団を確立して欲しいと言ってきたのです。歴代の区長が10年も申し送りしてきたことでした。私は、若い人が自らやりたいと言ってきた何とかしなければと思いました。

区内の人たちは、火災は消防署が消せばいい、朝の訓練は大変、酒を呑んで騒いでいるだけだというイメージでほとんど反対でした。

私は、区会で消防団の重要性を経験を踏まえて話しました。今は青年団がなく、若い人の集まる情報交換の場がない。消防団が唯一仲間を作れる、自衛消防と違い、消防団では区を越えて若い者が交流できる。

東日本大震災発生した年で、消防団の活躍がテレビに映し出されました。人海戦術が必要な災害や行方不明者の捜索等で必要な存在であり、自分の地域は自分で守る考えをもった若い人が必要だ、御柱祭のラッパのまとまりが必要だなどを話し、消防の重要性を訴えました。

また自主防災会に消防団を含める形を提唱しました。

安否確認に必要、大雪や火事で消火栓がどこにあるかわからずに消火が遅れることがあるので消火栓が明示された地図が必要、ホースの格納箱に雨が沁み、ホースが腐るのでメンテナンスが必要、自衛消防ではポンプ操法の指導はされないが、消防団では救護の仕方や防犯の仕方でも教えてもらえる。このような説得の結果、長峰区は市消防団の13部に昇格しました。

消防団の団員の活動にご理解下さい。

●山谷恭博IM実行委員長＝IMは3月9日12時30



分よりマリオローヤルで行います。駐車場が少ないため、電車か乗り合わせで来て下さい。

基調講演は、玉川大学の大豆田啓友教授の「いまどきの子育てで大切なことー21世紀社会の子育て」というテーマです。パネルディスカッションは、「100年人生を迎え、これからの子育てを考える」というテーマで、小松郁俊会員がコーディネーターとして諏訪7クラブから一人ずつパネラーを出してもらって行きます。諏訪クラブには高橋千昭会員にお願いしてあります。

今の子どもはスマホの世界に浸かっています。AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)など、人間から離れたものが活躍する時代が来ています。人間味がなくなり、機微を踏まえて酌量することができなくなるのではないかと。機械になじんだ子ども達に情状をどう理解してもらおうか、機械との共存の中で人間の役割はどういうものか。今回のIMで何かをつかんで、子どもや孫に伝えて欲しいと思います。

友愛の広場とパーティの冒頭では、3世代家族による弦楽5重奏の演奏があります。懇親会は一人6000円で経費をまかなうことにしました。当クラブは歴史が浅く、会員数からも財政の蓄積がありません。窮屈かもしれませんが、IMを継続していくために背に腹を変えられないとの思いです。ご理解いただきご参加下さい。

◆今後の例会日程

2月15日	金	準法定休日
2月22日	金	クラブフォーラム(国際奉仕委員会)
3月1日	金	クラブフォーラム(諏訪市長、年頭所感)
3月8日	金	アト合同例会(青少年奉仕委員会)

執筆担当 北川和彦